

2024年度 ベトナム研修 報告書

医療科学部 放射線技術学科 3回生 氏名 植村 愛

〈 研修概要 〉

2月25日から3月6日の10日間のベトナムでの海外研修に参加しました。ベトナムの都市ホーチミン市にあるチョーライ病院にて病院実習をし、フエ市ではフエ医科大学の学生との国際交流と付属病院での病院実習を行いました。

〈 研修参加の目的 〉

私が、ベトナム研修に参加した目的は3つあります。

1つ目は、海外の医療現場を体験することです。日本とベトナムの医療の違いや診療放射線技師の方の工夫などを学ぶことは貴重で将来に活かせると思いました。

2つ目は、語学力の向上です。外国の方と話すことが普段ないため、自分の英語がどこまで通用するのかを試す良い機会になると思いました。研修中は積極的に質問をしたり、コミュニケーションをとることを意識しました。

3つ目は、行動力の向上です。優柔不断で決断が遅い自分を変えるため、研修中は「何をすべきなのか」「自分はどうしたいのか」を素早く判断し、すぐに行動に移すことを意識しました。

〈 研修で学んだこと 〉

○チョーライ病院

病院に入って、まず患者の多さに圧倒されました。検査室前の椅子だけでなく、病院の外にも多くの患者さんが待っていました。一日1500件以上のX線撮影や500件以上のCT検査が行われていると聞き、日本の病院の検査数と大きな差があり衝撃を受けました。ベトナムの病院の朝は早く、6時か7時には検査が始まり、16時には終了するそうです。患者は、前の患者の撮影が終了したことがわかると、呼ばれる前に自ら撮影室入室し、次に撮影される患者の家族が前の患者の介助をしていました。また、造影検査のための静脈ルートを事前に確保し、そのまま順番が来るまで待たせているなど、より多くの患者を撮影するために効率が重視されていると感じました。さらに、操作室の真後ろに患者の待つ場所があり、カルテや画像が患者から見えしまう状況であったり、金属の吸着が起こる危険性があるMRIでアクセサリーを着けたまま検査を受けていたりするなど日本と異なる環境にとっても驚きました。被ばくへの意識や個人情報の管理、安全面などについて日本と大きな違いがあると感じました。

チョーライ病院の先生方は撮影の間で画像再構成を行ったり、患者の静脈ルートを確保したりと時間を余すことなく働かれていました。その時間を大切し無駄にしない姿勢を見習いたいと思いました。



▲ホーチミンでの Farewell party



▲チョーライ病院でのプレゼンテーション

○フェ医科薬科大学附属病院

CT 検査では、CT 装置にタブレットが備えつけられており、検査スケジュールの確認や検査部位の選択に加え、天井のカメラの映像を使いおおまかな撮影範囲を設定することができ、2年生の臨床実習で見た装置と大きく異なっていました。

MRI では医師と共に必要な画像が得られるようにシーケンスを追加することを学びました。一般撮影では、患者登録や様々な部位のポジショニングをさせていただきました。日本語が通じないため、最初はとても緊張し戸惑いましたが、現地の先生や学生の助けによって撮影ができました。しかし、実習中に現地の先生に X 線中心線やポジショニング方法について質問された際にすぐ答えられず、知識の定着が不十分であることを痛感しました。また、各検査前の患者確認の際には、氏名と生年月日だけでなく、住所も聞くと学びました。

ベトナムの学生は、病院で働かされている技師と同じ業務に従事しており、患者の呼び込みからポジショニング、撮影、画像確認、さらには静脈ルートの確保まで実施していて驚きました。同じ年齢の学生であるにも関わらず知識量や臨床での技術の差をとて感じ、焦りを覚えました。日本の臨床実習では、できることは限られていますが積極的に行動し、就職後に必要となる技術を身につけたいと思いました。また、学んだ知識が臨床現場で具体的に必要となる場面を意識しながら学習していきたいと思ひます。



▲フェ医科薬科大学付属病院での実習



▲フェの学生との交流

○人の優しさ

この研修中は多くの人の優しさに触れました。ホーチミンでは、日本とは異なりバイクが非常に多く、歩行者優先の文化ではないベトナムで交通量が多い道路を渡る必要があることを心配して、病院の方が毎日ホテルまで送り迎えをしてくださりました。病院実習中は、患者が多く忙しいにも関わらず検査の説明をしてくださり、質問に丁寧に答えてくださいました。また、歓迎会や Farewell party では常に私たちに気にかけてくださり、初めて食べる料理の食べ方を教えていただき、おすすめのお土産やお店の話をしてくださりました。

フェ医科薬科大学の学生との交流では、学生がバイクで様々な場所に連れてってくれました。私達の希望にあったプランを考えてくれて、とてもたくさんの思い出ができました。また、「気にしなくていいから困った時は何でも言ってね」と言ってくれたことで安心して過ごすことができました。

ベトナムはフレンドリーな方が多く、自由時間に観光で寄ったお店で声をかけていただき、ベトナム紙幣の扱いに慣れておらず支払いに困っている時に、どのお札を出せば良いか親切に教えてくださいました。街中や空港でも多くの方々に助けていただきました。

一緒に研修に参加したメンバーにもたくさん支えられました。体調を崩した時に心配や、食べられそうなものや熱冷シートを分けてくれたりしました。日本に帰りたくなるような瞬間もありましたが、励まし合いながら乗り越えることができました。「みんながいてくれて良かった」と何度も感じました。普段あまり話したことのないメンバーも多かったのですが、絆が深まったと思います。

多くの人の優しさのおかげで、とても良い思い出ができました。私も人のために行動できる優しさを持った人になりたいと思いました。



▲ホーチミンの観光名所



▲ベトナムの伝統衣装の体験

〈まとめ〉

研修を通して、多くの挑戦ができました。普段なら躊躇してしまうことも、「やりたいと思ったことは全部やる」という気持ちで行動したことで貴重な経験がたくさん得られました。自分の英語力の低さによって相手にうまく伝えられないことに歯がゆさを感じながらもジェスチャーを用いるなど工夫してベトナムの方々とコミュニケーションをとることができました。臨床実習では働いている技師の方々にたくさん質問をしたり、実際に働いている姿を見学させていただいたりしたことで、ベトナムの病院の現状や日本との相違点などを学ぶことができました。また、自分の知識量や技術の不足を実感し、学習意欲が大いに高まりました。実際に見て体験することでより理解が深まると感じました。4年の臨床実習でも働く技師の方の技術を積極的に学んでいきたいです。さらに、国家試験合格を目標とするだけでなく、就職後に活かすための知識を身につけ、患者が安心して検査を受けられる環境を作れる診療放射線技師になりたいです。また、困っている人にすぐ手を差し伸べる優しさを持ち、常に積極的に行動できるよう努力していきます。

〈謝辞〉

この度は、ベトナム研修という貴重な機会をいただき誠にありがとうございました。お忙しい中実習を受け入れていただいた、チョーライ病院・フエ医科薬科大学附属病院のスタッフの方々、限られた時間の中で多くの経験をさせてくださったフエ医科薬科大学の学生の方々、引率してくださった霜村先生、石田先生、本谷先生、共に研修に参加した11人には深く感謝申し上げます。また、本研修に関わってくださった全ての皆様に心より感謝いたします。